

生産・販売事業における需要動向に対応した採材の取組

岩手南部森林管理署遠野支署 販売係員 ○菊原 嘉晃
技術指導官 高橋 義臣

1. はじめに

木材の需要は、日々変化しており、森林管理署としてもいつどのような材を生産し販売すればよいのか悩むところである。今年度は東日本大震災が発生し2年目となるが、当支署が管轄する遠野市においては、震災復興に対する後方支援活動の一大拠点ともなっており、復興需要等に対して迅速な対応を行うとともに、需要動向に対応した採材を行うことがより一層求められることから、今回の課題に取り組むこととした。

2. 研究方法

平成24年度の製品生産事業の採材を行うにあたり、次のとおり調査及び事業を実施した。

(1) 震災前の平成22年度と震災後の平成23年度のスギとカラマツの採材状況と木材単価の比較分析を東北森林管理局青森事務所側（青森県、岩手県、宮城県、以下同じ。）及び遠野支署について行った。

(2) 遠野市及び近隣の製材会社4社へ需要動向調査を行った。調査内容は、以下のとおりである。

①震災後のスギとカラマツの2mと3～4mの需要の変動とその理由、②震災後のスギとカラマツの2mと3～4mの素材価格の変動と原因、③木材需要の展望、④スギとカラマツについて求める長級。

(3) 需要動向調査を行った上で、局からの採材指示書を踏まえながら採材に対する取組を行った。また、事業実行期間中は、委託販売及びシステム販売における需要動向を注視しつつ、市況の落ち込んでいる長級等が見受けられた場合には、再度、需要動向調査を行った上で採材指示の見直しを行うとともに、震災復興に関する需要動向の情報収集に努め、取組を行った。

3. 結果

(1) 震災後の採材状況

震災前と震災後の採材状況の比較分析については、震災前の平成22年度2月期と震災後の平成23年度2月期の東北森林管理局青森事務所側での累計販売量を比較すると、スギ、カラマツともに2m材の割合が22年度に比べ低くなり、3～4mの割合が高くなった（表1、表2）。これは、震災により沿岸部の大手合板及び製材工場が壊滅的な被害を受け、合板材・チップ材の需要が落ち込んだこと。また、震災後、スギの採材について東北森林管理局から長材を中心に採材する指示があったこともスギの2mの割合が特に低く

なった原因と考えられる。なお、遠野支署の採材状況も同様の傾向が見られた。

スギ	2m	3m～4m	計
H22	47% 59,661m ³	53% 66,873m ³	126,534m ³
H23	36% 51,914m ³	64% 90,806m ³	142,720m ³

カラマツ	2m	3m～4m	計
H22	57% 23,830m ³	43% 17,940m ³	41,770m ³
H23	54% 27,239m ³	46% 22,920m ³	50,159m ³

表1 スギの採材状況

表2 カラマツの採材状況

【東北森林管理局青森事務所側（青森県、岩手県、宮城県）】

（2）震災後の素材価格

震災前と震災後の販売単価の比較分析については、東北森林管理局青森事務所側での販売単価は、平成22年度に比べスギ、カラマツともに全体的に単価が下がっていることが分かった（表3、表4）。これは、震災後に工場が在庫を抱え行き場を失ったことなどにより、販売単価が下がったのではないかと考えられる。また、遠野支署では、スギ2mについては価格が上がったが、3～4m、そしてカラマツの2m、3～4mは、青森事務所側のデータと同じように下がる結果となった。

（単位：円／m³）

スギ	2m	3m～4m
H22年	5,523	7,886
H23年	5,423 (-100円)	7,483 (-403円)

カラマツ	2m	3m～4m
H22年	8,127	13,438
H23年	7,259 (-868円)	10,548 (-2890円)

表3 スギ販売単価

表4 カラマツ販売単価

【東北森林管理局青森事務所側（青森県、岩手県、宮城県）】

（3）需要動向調査

平成24年度の採材に向けた需要動向の調査の結果については、震災後の木材需要の変動について、震災後の23年度はスギの2mの需要が多くあったと答えた会社が1社、スギの3～4mの需要が多かったと答えた会社が3社あった。スギ2mの需要が多かった理由は、震災後ホームセンター向けの需要が多くあったと言うことであったが、一方では、3～4mの需要があり、2m材に手が回らなかった。2ヶ月に1、2回くらい来る客には断ったという声もあった。また、スギの3～4mの需要が多かった理由は、震災後仮設住宅向けの需要が多かったことや福島第一原発事故の影響で首都圏への市場向けの製品が動いたということであった。カラマツ材に関しては、2mは需要が少なく、3～4mは、前年度並みという結果であった。

次に震災後の木材価格の変動について、スギの2mは急騰して急落したという声もあったが、ほとんどの会社で需要は少なく、価格は変わらないという結果であった。また、スギの3～4mについては、震災後、木材チップ工場などが被災したことから納入先がなくなり価格は下がった。しかし、仮設住宅用材などの需要があり10月頃に多少上がった。そして、円高の影響により外材との価格競争で安値が続いている状況である。カラマツについては、スギと同様に円高の影響により、集成材のラミナが取引先から下げられ安値が続いている。また、外国から入ってくる集成材が安いため、カラマツの丸太からラミナを生産すると採算が合わないと言う意見もあった。

最後に平成24年度の木材需要の見通し及び求める長級について聞いたところ、24年度の木材需要の見通しについては、23年度に比べ多少上がると予想した会社が2社あり、理由は、遠野・釜石・大槌で復興住宅支援モデルの取組があることや、24年度は復興住宅建設が本格化し、震災復興による需要増を見通している会社があった。その一方で、沿岸部の復興住宅の目途が立たないという意見や、このまま円高の状況が続けば苦しい状況になると考える会社もあった。

また、平成24年度のスギとカラマツについて求める長級については、スギは4m、3.65m、3m、カラマツは4mを求める声が多くあった。このことから、遠野支署では、東北森林管理局からの採材指示書も踏まえ4m材を中心に採材することとした。なお、採材の実行にあたっては、現地検討会の開催や請負事業体の作業班と認識のすり合わせを行うなど緊密に連携しながら採材を行った。



現地検討会

(4) 実行状況

遠野支署における3ヶ月ごとの採材状況。

スギ	2m	3m～4m
6月～8月	21% 623m ³	79% 2,416m ³
9月～11月	35% 1,227m ³	65% 2,300m ³
12月～2月	44% 695m ³	56% 891m ³

表5 スギの採材状況

カラマツ	2m	3m～4m
6月～8月	31% 333m ³	69% 751m ³
9月～11月	35% 577m ³	65% 1,064m ³
12月～2月	38% 487m ³	62% 786m ³

表6 カラマツの採材状況

6月から8月の採材状況は、スギの3～4mが79%となり、カラマツの3～4mは69%と年間を通して3～4mの割合が最も高かった(表5, 表6)。これは、生産資材の材質が良かったことや生産事業の実行にあたって採材について細かく指示したことが要因である。また、7月、8月の委託販売では、スギの市況が悪いため2m、4mとも応札がほとんどない状況であった。そのため、4mではなく、3.65mを中心に採材するよう

に進めた。

9月から11月の採材状況は、スギ、カラマツともに同じ割合になった（表5、表6）。特にスギは2mの割合が14%も上がる結果となった。これは、委託販売でスギの3mの応札がほとんどなく、市況が悪かったため、11月に3mの採材を取りやめたことが大きく影響している。このことから、12月から3m採材をやめ4mを中心に採材する予定であったが、再度、需要動向調査を行ったところ、業者から3mの14～28cmがほしいという需要があったため、4mを中心に採りつつ、要望のあった3mについても採材することにした。

12月から2月の採材状況は、スギ、カラマツともに、2mの割合が9月から11月に比べて若干上がる結果となった（表5、表6）。特にスギは、4mを中心に採りつつ、3mの14～28cmも採材したが、3～4mの割合は下がる結果となった。これは、生産資材の材質等が悪かったことが原因にあげられる。

（5）遠野支署における販売単価の推移

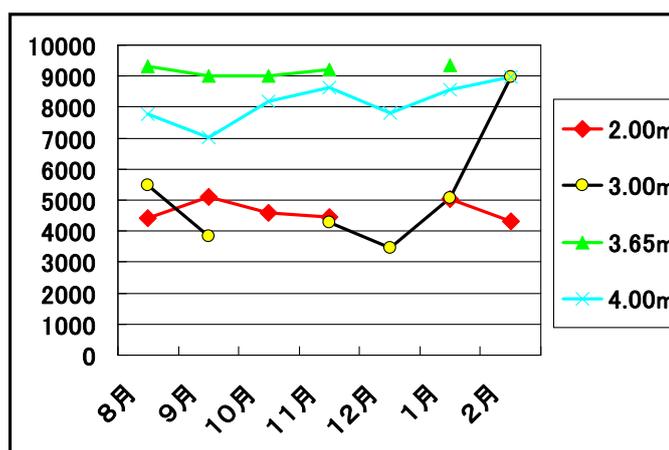
①スギ月別販売単価の推移

スギの2月までの月別販売単価の推移については（図1）、2mは大きな変動はなく、平均単価は4,650円であった。3.65mも大きな変動はなかったが、高い単価を維持しており、平均単価は9,171円と、4m材よりも高い金額で販売することができた。4mは径級が細い材も販売したため、7,000円～8,000円代の単価になった。3mは8月5,000円代の高い単価で販売できていたが、9月から4,000円を切るようになり、10月は販売したが応札がなく12月まで不況が続いた。しかし、1月のシステム販売では8,100円、2月の委託販売では8,960円と4mとほぼ同じ単価で販売することができ、平均単価は5,000円代に回復した。

図1 スギの月別販売単価

【平均単価】

- 2.00m = 4,650円
- 3.00m = 5,270円
- 3.65m = 9,171円
- 4.00m = 8,136円

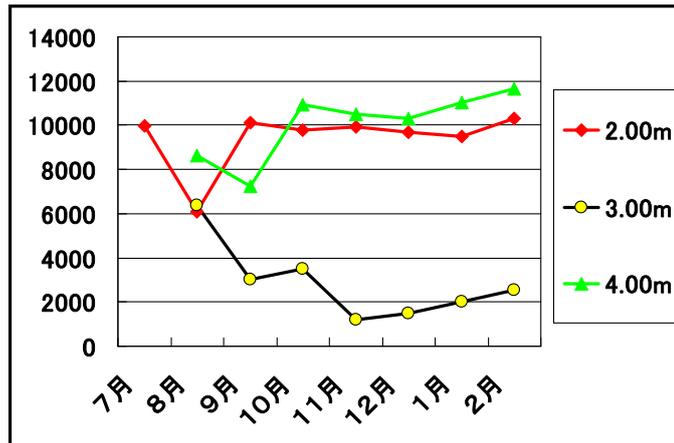


②カラマツ月別販売単価の推移

カラマツの2月までの月別販売単価の推移については（図2）、2mは8月に単価は下がったがその後は回復し、9,000円代の単価で販売することができた。3mは8月6,000円代で販売していたが、9月から大きく落ち始め平均単価は低調に推移している。4mは8月頃は8,000円に近い単価であったが、10月から10,000円代の単価で販売する事ができた。

図2 カラマツの月別販売単価
【平均単価】

- 2.00m = 9,421円
- 3.00m = 2,875円
- 4.00m = 10,038円



4. 考察 (今後の展開を見据えて)

遠野支署では、震災前と震災後の採材状況及び木材価格を調査し、製材会社へ需要動向調査を行った結果を踏まえ、当支署管内又は沿岸地域の市況状況を見極めながら生産販売事業を実施した。その結果、全体的に木材需要が低迷する中で価格は低調であったものの、全て販売することができた。また、スギの3m材については、単価の急落があり販売できない月もあったが、1月のシステム販売では8,100円、2月の委託販売では8,960円と、4mとほぼ同じ単価で販売することができた。

今年度は復興需要の大きな動きは見られなかったものの、スギ3m材が高値で売れた要因となった大槌の復興住宅の需要に見られるように、一部には復興の兆しが出てきており復興はこれから本格化すると言われている。特に遠野支署管内では、森林のくに遠野協同機構が参画している上閉伊地域復興住宅協議会による地域型復興住宅の建築等、地域における供給体制が構築されている中で、被災地域によって流通ルート・部材仕様等が異なることから、いかに需要のニーズにマッチングさせていくかがこれからの重要な課題であり、国有林の使命でもあると考える。

以上のことから、

- ① 今後も常に需要ニーズの把握に努めるため、定期的、継続的な需要動向調査を行う。
- ② 調査の結果を踏まえて、リアルタイムで請負業者と連携した採材を行い、単に樹種・径級・長級と画一的な仕分けを行うのではなく、更なる細分巻き立てを行う。
- ③ さらに、需要動向へ迅速に対応するためには、システム販売の活用が必要であり、その拡充を含めた一層の取組が有効なものとする。



長級調査